



日本語の雑談会話における話題転換研究の方法：  
話題転換はどこで行われ、どう分類されるか

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2015-02-17 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 花村, 博司 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://doi.org/10.24729/00002719">https://doi.org/10.24729/00002719</a>

# 日本語の雑談会話における話題転換研究の方法

## —話題転換はどこで行われ、どう分類されるか—

花 村 博 司

### 1. 話題転換とその種類

話題転換にはいろいろな種類がある。この論文では、日本語の雑談会話における話題転換について、転換箇所の特定方法を述べ、さらに話題転換の種類を分類する方法を提示する。この分類により、それぞれの転換における話題転換表現の出現傾向が説明可能となる。話題転換という、会話の状況や聞き手への配慮が必要な言語行動の実態はほとんど解明されていないが、提示する分類法によって、話題転換の実態の一部があきらかになることを主張し、その有効性を述べる。

この研究で対象とする、雑談会話における話題転換とは、以下のようなものである<sup>1</sup>。

(1) 50代女性Jと40代女性Kによる雑談会話(2011年7月16日)

- 1 K: あたし一回な、宝くじ落としたことがあってー(んー)。
- 2 K: なんか初日に買いにいてー(んー)。
- 3 K: ほんだら初日ってテレビカメラがおるねやんかー(うんうん)。
- 4 K: ほんだらすごい緊張、いやっ、映されとったら恥ずかしいなと思って緊張するやんかー。
- 5 K: ほんで買ーてー‘こーてー’(うん)。
- 6 K: だからそのテレビカメラが気になって、あたし、落としたん気ーつけへんかって(んー)。

<sup>1</sup> 文字化の方法は、基本的に宇佐美(2011)に基づくが、考察対象としないオーバーラップなどの記載は省略する。文字化記号の凡例は稿末資料参照。

- 7 K : で、警備員さんに“落ちてますよ”って〈言われて〉(〈笑い〉)。
- 8 K : 今買った‘こーた’宝くじ手一から全部落としてて(あー)。
- 9 K : なんか知らんけど(あー)。
- 10 K : なぜか落ちてて(んー)。
- 11 K : 〈ほんで“いやーすいません”言うて〉拾って(んー), なんか、めっちゃ、これテレビに映されとったらどうしよって。
- 12 K : まー映されてないとは思うけど。
- 13 J : うーん、大阪って、けっこうなーあ、そういうのって多いしなーあ(うーん)。
- 14 J : ぜんぜん話変わるけど、あたしちっちゃいときに、お風呂屋さん行って、お風呂屋さんに着いたとたん(んー), ぱっと見たら洗面器しかなくて(んー)。
- 15 J : ずーっと見たら、下着から(えー), 下着、下、服《少し間》着替える服をぼんぼんぼんって置き、あの、
- 16 K : それ何歳、何歳のとき。
- 17 J : 小学校やと思う。
- 18 J : 小学校。
- 19 K : え、あんた一人で行ったことあんの？。
- 20 K : 小学校のとき、お風呂一人で行ったこと。
- 21 J : うん、行ったことあるで。
- 22 K : えーでも、でも自分なー(うん), あんたなー, 折りたたみの傘のなー, 柄一だけなー, 持ってなー, 下落としてきたことあるやろ？。
- 23 J : あー、〈それもあるよ〉。
- 24 K : えーそれあんた、普通考えられへんことやわ〈笑い〉。
- 25 J : 〈笑い〉ほんでー, ほんだらー(んー), ちょうど、拾ったたらー(んー), 男の人にー(んー), “大事なもんが落ちてるでー”って言われて。

26K：パンツ拾われた。

27J：あ、いや拾われてないけどー，パンツ拾ってるところを見られて（んー），すごい恥ずかしかった。

ここでは、まずKがテレビカメラに緊張したせいで買った宝くじを落としてしまったという先行の話題があり（～13J），後続部では、Jが子どものころ風呂屋に行く途中、持っていた着替えをすべて落としてしまったという話題に変わっている（14J～）。

この論文における話題転換の分類を、あらかじめまとめて図1に示す。

話題転換は、まず現場性の有無によって大きく2つに分けられる。現場性のない（会話の現場に存在しない事物が話題となる）話題転換は、発話の連鎖の特徴という観点から、境界づけの有無によって、さらに2つに分けることができる（2で詳述）。このうち、この論文でおもに取りあげるのは、境界づけのある話題転換の下位分類であり、「話題のつながり」という観点からの分析を行う。

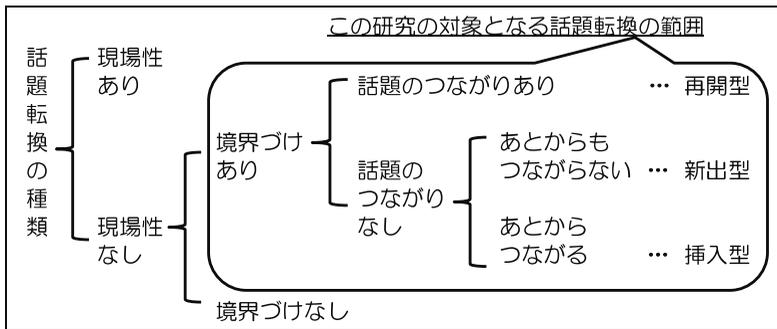


図1 日本語の雑談会話における話題転換の分類

以下、「大阪府立大学西尾研究室談話データ集」の会話例を示しつつ、具体的に説明しながら、図1に示した分類の検証を行っていく。まず、2で「発話の連鎖の特徴」からみた分類を、3で「話題のつな

がり」からみた分類を示す。4では、これらの分類では扱えない「現場性のある話題転換（現場状況の影響を受けた話題転換）」に触れ、最後に5で、提示した分類による発展的な研究の可能性について述べる。

## 2. 話題転換の分類 I—発話の連鎖の特徴から—

ここでは、発話の連鎖の特徴からみた分類について述べる。まず、2.1で「境界づけのある話題転換」の特徴を略述する。次に、2.2で、この研究では対象としない「境界づけのない話題転換」の例をあげ、その特徴および対象としない理由を述べる。

### 2.1 境界づけのある話題転換

「境界づけのある話題転換」“*boundaried topical movement*” (Atkinson & Heritage, 1984 : p. 165) は、「ひとつのトピックが終了してから、別のトピックが開始される」形のものである。前述の(1)の例がこれに相当する。

買った宝くじを落としてしまったという話題が13Jで終了し、矢印で示した14Jからは、風呂屋に行く途中で着替えを落としたという話題が始まっている。そして、この境界部分において、話題の区切りを示すため、14Jにみられるようになんらかの手続きが示される。これにより先行話題と後続話題の境界があきらかとなる。この研究での分析対象となるのは、このような境界づけのある話題転換であり、その具体的な分析方法については、3で詳述する。

### 2.2 境界づけのない話題転換

いっぽう、この研究の分析対象とはならない「境界づけのない話題転換」“*stepwise topic movement*” (Sacks, 1992 : pp. 300-301) では、先行話題とは無関係の後続話題がある場合、両者に関係あるものが、そのあいだに挟まれる。この転換は、「トピックの開始・終了の手続きが用いられることなく、発話連鎖ごとに一歩ずつトピックが推

移していくように見える」(串田1997:p. 179)。たとえば、以下の(2)のような例である。

(2) 20代女性Cと40代女性Dによる雑談会話(2010年6月26日)  
(Dが子どものころ、ニンジンなど、食べ物の好き嫌いがあったという話)

1 D: だってなー、いやなもんでー、隠されとっててもわかるやろ?。

2 C: わかるわかる。

3 D: たとえば、“焼き飯に入れましたー” いうたってー、

4 C: ていうかな、見えんねん、なんか知らんけど。

5 C: そういうときに限ってなー、ひょこっとう##,,

6 D: せやろ、そやろ、そやろ。

7 D: 毛虫といっしょやねん。

———— 7 発話省略 ————

15 D: 「人名」とかー、「Dの自称」といっしょに歩いとっててもや  
なー、みんなわかってないのに、あただけが毛虫が,,

16 C: おるー<笑い>。

17 D: おるーっていう状況になんねや。

18 C: よくあるよね、そういうのってねー。

19 C: わかるわー。

20 C: 歩いとったら、や、あの鳥がね、ちよろちよろってうろつ  
くとかね。

———— 6 発話省略 ————

17 D: ハト?。

18 C: ハト。

19 C: ハトより猫やな。

30 D: <笑い>。

31 C: ち、今のブームは猫やな。

32 D: いー、この時期の猫はあかんわ。

33 D: 終わってるわ。

34C：ち、この時期の猫っていうか、もう、《少し間》あの一猫がーやろ。

35C：ほんま、うるさかったわー。

36D：あの猫たち [「たち」を強調して]。

——17発話省略——

54C：ビービー弾とか撃たれへんやん（うん）。

55C：“ばーん” てできんやん。

56D：や、猫も撃たれへんけど。

57C：やから、もー、なんかー、いいけど。

58D：カラスはあかんらしいで、や、やったら。

59C：やり返されんねやろー?。

60D：うん。

61D：つつかれるらしい。

62C：めっちゃ怖いやん、カラス。

——3発話省略——

66D：あれ、カラスー、色ぬれたらいいのにな。

67C：どういうこと、どういうこと?。

68C：黒じゃなくてってこと?。

69D：おーん、あー、あー、ピンクとかやー。

70C：嫌やろピンクのカラス。

71D：え、かわいくない?。

72C：<キモい>。

ここでの当初の話題は「Dが子どものころ食べ物の好き嫌いがあつた」というものであり、それが「ピンク色のカラスは気味が悪い」という話題に推移していく。そのあいだに、「嫌いなものは隠されていても目につくこと」や、「毛虫やハトなども嫌っていると目に入ってくること」、「この時期はハトより猫がうるさくて嫌なこと」、「猫は追っ払っても逆襲されないが、カラスはやり返されること」などが言及され、そこから「カラスは真っ黒で怖いから、ピンクに塗れたらいい

い」という話題が導入される。これらの推移には、話題の境界づけがない。たとえば20Cや58Dは、直前の発話を補足したり、直前の発話に対比したりしながら、ひとつひとつ直接つながっていく連鎖である。

このような話題の推移の構造を捉える方法として、「内容区分調査」(鈴木1995：p. 76など)がある。これは談話資料の参加者以外の調査協力者による主観的な区分を総合して、内容上のまとまりを認定するものである。話題は「大話題」「中話題」「小話題」などと下位区分される<sup>2</sup>。

しかしながら、「トピックの内容によって話題の推移を記述しようとすれば、人間の恣意的な視点に大部分を頼ることになる」(West & Garcia, 1988：p. 552)ということがすでに指摘されている。さらに、このようにトップダウン式に区分を決めていった場合、区切れの位置をどこまで細かく認めるかが人によって異なり、際限なくまとまりがわけられていく可能性がある。たとえば、(1)の会話をトップダウン式に区分した場合、「何かを落とす話」として、まったく分割せず、ひとつの大話題とするみかたも可能である。また、「Kが宝くじを落とした話」(1K-13J)、「Jが着替えを落とした話」(14J-27J)という中話題的な区分もできる。いっぽう、極端ではあるが、以下のようにかなり細かい小話題的な区分のしかたも考えられる。

- 1：Kは宝くじを落としたことがある (1K)
- 2：発売初日はテレビカメラが来ていて緊張した (2K-4K)
- 3：宝くじを落としたが気づかず警備員に指摘された  
(5K-10K)
- 4：映ってはいないと思うが、大阪はこのような撮影が多い  
(11K-13J)

<sup>2</sup> その会話に参加していない調査協力者(会話参加者を含む場合もある)に話題区分をしてもらったうえで、それを参考にし、最終的には研究者のたてた基準(話題開始部・話題終了部で用いられる言語的要素、沈黙、内容のまとまり、言及の対象、場所の移動状態など)にそった認定をするという方法もある(中井2012：pp. 69-70)。

- 5 : J は風呂屋に行く途中, 着替えを落としたことがある  
(14 J -15 J)
- 6 : 小学生のころ, J は一人で風呂屋に行ったことがある  
(16K -21 J)
- 7 : J は折りたたみ傘の柄から下の部分だけ落としたことがある  
(22K -24K)
- 8 : パンツを拾っていたら, 男の人に見られて恥ずかしかった  
(25 J -27 J)

これらのうち, どこでどの区分を採用するとしても, 恣意的な判断とならざるをえない。

そこでこの論文では, 内容による話題の判断にあたって, 以下で示すように, ボトムアップ式で, できるかぎり主観を排除した話題転換箇所認定方法を提案していく。話題転換の境界箇所が客観的に判定できるものを分析対象とするため, (2) のような「境界づけのない話題転換」は分析の対象としない<sup>3</sup>。

### 3. 話題転換の分類Ⅱ—話題のつながりから—

ここでは, 2.1 「境界づけのある話題転換」の下位分類として, 「話題のつながり」という観点からの分類について詳述していく。まず, 3.1で, この分類を行うための参考とする, 文章論における接続の種類についての先行研究を紹介し, この研究における応用の実際を説明する。これにより, 話題転換箇所が特定される。次に, 3.2では, 実際に分類した会話例を提示しながら, 3.2.1で「再開型話題転換」について, 3.2.2で「新出型話題転換」について, 3.2.3で「挿入型話題転換」について述べる。

<sup>3</sup> さらに, 日本語教育への応用を視野に入れた場合, 学習者にとっての問題は「スムーズに話題間の境界づけをすることができない」(楊2005 : p. 163)ということであり, 境界づけのある話題転換において境界づけを示す話題転換表現についての分析がまずは必要であると考えられる。

### 3.1 文章論における「接続の種類」の応用

#### 3.1.1. 「文の接続」と「発話のつながり」

日本語の談話研究は、文を超える単位としての談話という観点で、永野（1959, 1972）や市川（1963, 1978）などにおいて、国語教育に役立てるための文章論として発展した。文章論における文の接続関係の研究では、文と文のつながりを接続詞の分類から整理し、それが文章の結束性を示す指標として「意味的關係の種類を分類するのに即役立つ」といわれている（糸井2003：p. 283）。

話しことばの研究においても、接続表現や談話標識を指標とし、発話と発話のつながりかたや談話の結束性があきらかにされてきた。しかし、その前後のつながりを検討する前に、接続表現がもつ意味をあらかじめ想定可能だとしたら、その説明は循環論になってしまうおそれがある。たとえば、「発話AとBは「でも」で接続されているから、これらの発話は逆接の関係にある」というようなものである<sup>4</sup>。また、「まとまりがどのようなものかを考える前にまとまりを作る手続きを前提にしてしまったこと」が、先行研究における混乱の一因とされている（石崎・高梨2009：p. 91）。

以上をふまえ、この研究では、まず接続表現や談話標識などの「手続き」の部分すべてを取り除いたうえで、実質的発話のみを抽出し、その前後関係からつながりを検討する。つまり、「転換の接続詞があるからここで話題が切れる」という考えかたはしない。実質的発話の前後関係を検討し、直接のつながり（3.1.2で述べる、展開、反対、累加、同格、補足、対比の関係）が認められない箇所になんらかの「手続き」的要素があれば、それを話題転換表現とする。

たとえば、(1)の例でいうと、先行話題の実質的な終了部は「大阪、けっこう、そういうの多いし」である。そして後続話題の実質的発話は「あたしちっちゃいときに、お風呂屋さん行って」で始まっている。これらの境界にあるのは、話題の転換を示すといわれている表

<sup>4</sup> 話しことばにおける接続詞の問題については、大石（1954）にすでに指摘がある。

現、「ぜんぜん話変わるけど」である<sup>5</sup>。転換を聞き手に示すための表現であるため、後続話題の最初の実質的発話の直前と直後にあらわれたものが話題転換表現マーカーとなる。直後を加えるのは「～さ」「～ね」「～って」なども転換を示すことがあるからである<sup>6</sup>。

### 3.1.2. 話題転換箇所の認定方法

抽出された実質的発話の前後関係を本質的にみきわめるために、永野（1959）の分類を援用する。永野（1959：pp. 78-82）は文の接続関係の類型として、9つの型（展開型、反対型、累加型、同格型、補足型、対比型、転換型、飛石型、積石型）を提示している<sup>7</sup>。このうち「転換型<sup>8</sup>」と「飛石型<sup>9</sup>」のつながりを話題転換と認定する。

永野（1959）の枠組みを用いるのは、接続表現を前提とせず、文と文のつながりそのものを分類しているからである。ここでは、これを話しことばの雑談に援用するにあたって、具体的に分析する方法を説明する。以下の（3）は、冒頭に提示した（1）の例を、発話のつながりの型とともに提示したものである。実質的発話と考えられる部分

<sup>5</sup> ここには相手のあいづちが挟まることもあるが、話し手の側からみた話題転換の分類が目的であるため、これはひとまず無視する。

<sup>6</sup> メイナード（1993）、村上・熊取谷（1995）、中井（2003）、楊（2006）などで、話題転換の働きをする表現マーカーとして取りあげられている。

<sup>7</sup> 接続表現や接続の類型に関する近年の研究では、これらのほかに「連鎖型」をたてている市川（1978）の枠組みが取りあげられることが多い。市川（1978：pp. 87-122）は、接続語句を重要な判断基準として分類を行っている。また、永野（1972：pp. 92-114）でも、接続詞などの言語形式を指標として、文と文の接続関係が分類できるとしている。それに対し、永野（1959：pp. 78-101）では、文と文の接続関係を示す最も鮮明な指標として接続詞をあげてはいるものの、結果的に文の接続関係の分類と対応するという提示のしかたをしており、先行的に文の意味的連関から接続の類型をたてようとしている。以上の点から、この論文では永野（1959）を引用元とする。

<sup>8</sup> 以下の①と②の関係が転換型である。「①お見うけするところ、お元氣そうで何よりでございます。②ときに、きょうは、少しお願いがあつて参上した次第でございます。」（永野1959：p. 81）

<sup>9</sup> 以下の①と②、および②と③は、それぞれ転換型でつながる関係であるが、①と③の関係は②をへだてて展開型となっている。この①と③の関係を飛石型という。「①船が波止場を離れた。②港の空には、カモメが幾羽も飛び交うている。③船は、白波をけて進んだ。」（永野1959：p. 81）

を二重下線で示してある。

(3) 50代女性Jと40代女性Kによる雑談会話(2011年7月16日)

(= 1)

1 K: あたし一回な、宝くじ落としたことがあって (んー)。

▼補足型

2 K: なんか初日に買いにいった (んー)。

▼累加型

3 K: ほんだら初日ってテレビカメラがおるねやんか (うんうん)。

▼展開型

4 K: ほんだらすごい緊張、いやっ、映されとったら恥ずかしいな と思って緊張するやんか。

▼展開型

5 K: ほんで買って (んー)。

▼展開型

6 K: だからそのテレビカメラが気になって、あたし、落としたん 気一つけへんかって (んー)。

▼展開型

7 K: で、警備員さんに“落ちてますよ”って <言われて> (<笑い>)。

▼補足型

8 K: 今買った‘こーた’宝くじ手ーから全部落として (あー)。

▼補足型

9 K: なんでか知らんけど (あー)。

▼同格型

10 K: なぜか落ちて (んー)。

▼展開型

11 K: <ほんで“いやー” “いけません” 言うて 拾って (んー), なんか、めっちゃ、これテレビに映されとったらどうしよっ

て。

▼補足型

12K：まー映されてないとは思うけど。

▼補足型

13J：うーん、大阪って、けっこうなーあ、そういうのって多い  
しなーあ（うーん）。

▼転換型

→14J：ぜんぜん話変わるけど、あたしちっちゃいときに、お風呂  
屋さん行って、お風呂屋さんに着いたとたんに（んー）、ぱっ  
と見たら洗面器しかなくて（んー）。

▼補足型

15J：ずーっと見たら、下着から（えー）、下着、下、服《少し  
間》着替える服をぼんぼんぼんって置い、あの、

▼補足型（補足要求）

16K：それ何歳、何歳のとき。

▼補足型（応答）

17J：小学校やと思う。

▼同格型

18J：小学校。

▼補足型（補足要求）

19K：え、あんた一人で行ったことあんの？。

▼同格型

20K：小学校のとき、お風呂一人で行ったこと。

▼補足型（応答）

21J：うん、行ったことあるで。

▼飛石型（15J ▼対比型）

22K：えーでも、でも自分なー、あんたなー、折りたたみの傘の  
なー、柄だけなー、持ってなー、下落としてきたことあ  
るやろ？。

▼補足型（応答）

23 J : あー、〈それもあるよ〉。

▼補足型

24 K : えーそれあんた、普通考えられへんことやわ 〈笑い〉。

▼飛石型 (15 J ▼展開型)

25 J : 〈笑い〉ほんでー、ほんだらー (んー)、ちょうど、拾っとつたらー (んー)、男の人にー (んー)、“大事なもんが落ちてるでー” って言われて。

▼補足型

26 K : パンツ拾われた。

▼補足型

27 J : あ、いや拾われてないけどー、パンツ拾ってるところを見られて (んー)、すごい恥ずかしかった。

このように、ひとつひとつの発話がどのようにつながっているのかを特定し、それぞれの関係にラベリングを行う<sup>10</sup>。雑談会話が文章の場合と異なるのは、話し手と聞き手の相互行為であるがゆえに、補足型のなかに「応答」や「補足要求」のような下位的な分類ラベルの存在が考えられることである。これは、17 J、21 Jのように実質的な回答の場合もあれば、「そうですねー」など、あいづちに近い注目表示のようなものもある。これらは先行する発話との直接のつながりを見る場合、先行発話への補足ととらえられるものである。

また、ここには22 K、25 Jのような飛石型も出現している。これらは「先行する15 Jの発話とのあいだに対比型や展開型のようなつながりがみいだされるが、直前の21 J、24 Kとは直接つながらないタイプのものである。これについては、3.2.1で詳述する。

<sup>10</sup> このような型を実際の文や発話にあてはめて考えようとする、「個々人の主観による違い」が当然あらわれるが、文章における接続関係の判断は、「展開型」「累加型」「同格型」「補足型」のあいだで揺れている（永野1972：p. 102, 永野1986：pp. 130-133）。「転換型」または「飛石型」であるか、そうでないかという判定にあたっては、主観が影響することは少ないと考えられる。

以下では、転換型を「新出型話題転換」および「挿入型話題転換」、飛石型を「再開型話題転換」とし、例をあげながら説明する。「転換型」「飛石型」という用語をそのまま使わないのは、話題転換の下位分類に「転換」という語を用いることの煩雑さを避けるためである<sup>11</sup>。

## 3.2 「話題のつながり」からみた話題転換の分類方法

### 3.2.1. 再開型話題転換

「再開型話題転換」とは、会話をさかのぼれば、その発話がどこかの発話となんらかのつながりをもつような話題転換をいう。話題の内容という観点でいえば、話題の再出である。たとえば、以下の(4)のような例である。

(4) 20代男性Gと20代男性Hによる雑談会話(2010年6月30日)

1 G: 早くワールドカップ見たい。

2 H: どこ応援してるん。

3 G: んー〈ふっふっへーん〉、俺は別に、どこも応援してへんけど。

4 H: あー、どこも。

5 H: ただたんに見てるだけ。

6 G: とりあえず見たいだけ。

→7 G: 今日イングランドやる?。

8 H: もう、「Hの自称」どうだって〈いいねんけど〉。

9 G: イングランド?。

10 H: イングランド。

———36発話省略———

47 G: オフサイドだって、だいたいあれやろ、なんか(うん)、なんなん、こう旗あげてなかったらさ(うん)、オフサイドやのに、あの〈めっちゃポンポン〉、なんかなー、点入るし。

<sup>11</sup> いっぽうでは、この論文の「再開型話題転換」にあたるものを「話題の転換」とする先行研究もある。後述の表1には、それらの対応関係が示されている。

48G：点入った後にオフサイドとられたら、もう一気に萎えるやろ。

49G：〈もう〉、あれもう、んー難しいなーそのへん。

50H：なんとも言‘ゆ’わん。

→51G：あー今日はあれか、イングランドとー、他どこやったっけ  
《少し間》どこやったっけ。

52G：覚えてる？。

53H：アメリカとかちゃうん。

54G：あそっか。

ここでの後続話題，その日のサッカー・ワールドカップの試合予定についての発話（51G）は，直前の審判の判定問題という先行話題とは直接的にはつながらない。しかし，発話をさかのぼると7Gでの「今日イングランドやろ？」からの展開型発話ととらえられ，このような話題転換を「再開型話題転換」とする。

前述の（3）における飛石型発話の22Kや25Jは，15Jにさかのぼると，対比や展開として直接つながるが，こういうものも「再開型話題転換」に分類される話題転換である。

このような「再開型話題転換」の話題のつながりを模式図で示すと，以下の図2のようになる。（4）の51Gが発話b1であり，話題転換箇所にあたる。（4）の7Gが，話題Aよりも先行する話題Bの発話となる。

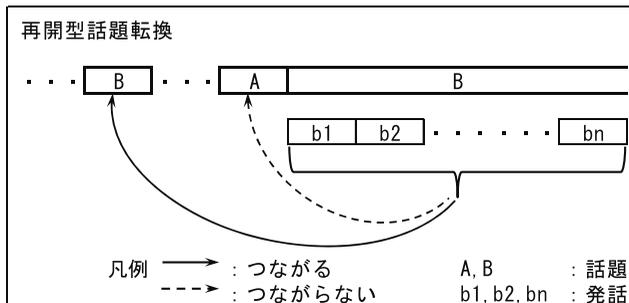


図2 再開型話題転換の模式図

### 3.2.2. 新出型話題転換

「新出型話題転換」とは、会話をさかのぼっても、その発話とつながりをもつ発話がどこにもみつからないような話題転換をいう。すなわち、話題転換後の最初の発話は、話題の内容としては、新しく提出されるもの（新出）ということになる。たとえば、以下の（5）のような例である。

（5）20代女性Cと40代女性Dによる雑談会話（2010年6月26日）  
（ブブゼラのオーケストラは音階がなく期待はずれだという話）

1 D：あれはー…,,

2 C：残念やな。

3 D：うん。

4 C：ブブゼラくん、残念やな。

5 D：あれはちょっとあかんわー。

6 C：ふーん。

7：《沈黙3秒》。

→ 8 C：きょう飲み会や。

9 D：飲んだらあかんで。

10 C：なんで?。

11 C：薬のんでるから?。

12 D：うーん。

13 C：いいやろ別に。

先行話題はブブゼラのオーケストラについてである。しかしそれが音階もなく残念なものだといい、「あれはちょっとあかんわー」というのが終了部の発話である（5D）。後続話題はきょうの飲み会についてで、「きょう飲み会や」が最初の実質的発話である（8C）。これらの発話には、補足や展開などといったつながりは、なにもみいだせない。

さらに、9D、10Cと、これ以降連なっていく発話についても、8

Cに先行するどの発話ともつながりがみいだせない。このような話題転換を「新出型話題転換」とする。

「新出型話題転換」の話題のつながりを模式図で示すと、以下の図3のようになる。(5)の8Cが発話b1にあたり、ここから話題Bがはじまる。6C以前に話題B(きょうの飲み会)についての発話はないので、話題Bのなかの発話につながる先がない。つまり、まったく新しい話題が提出されている。

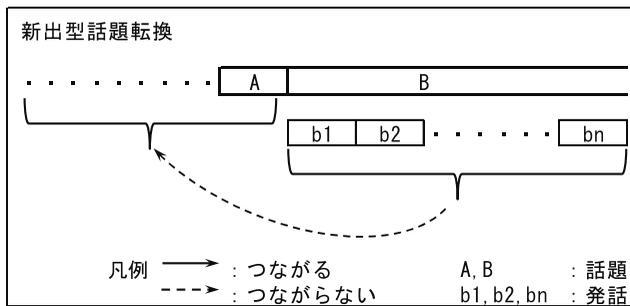


図3 新出型話題転換の模式図

### 3.2.3. 挿入型話題転換

いっぽう、話題転換後の最初の発話以降連なっていく発話群のなかに、会話をさかのぼれば先行するどこかの発話とつながりをもつ発話があった場合、話題の内容としては、まったく新しく提出されるものではない。たとえば、(6)のような例である。

(6) 20代男性Eと20代女性Fによる雑談会話(2010年6月28日)

1 E: もう、なんか、今では考えられへんけどさー(はい)、好きな子と写真一枚撮るん、必死やった(<笑い>)自分がおるよねー?。

2 F: あー、めっちゃわかります、それー。

3 F: 《少し間》やー、そうですよねー。

4 F: なんか、めっちゃ緊張します。

- 5 F : 喋りかけるのでさえずごい緊張してー。
- 6 E : あー、わかるわそれ。
- 7 F : んー、確かに、異常ですね、あれ。
- 8 E : なー、いじよ、高校生ってピュアよなー。
- 9 F : ねー。
- 10 F : 写真やら、喋りかけるぐらいで、なんもね。
- 11 E : 考えられへんよなー、今から考えたら (<笑い>)。
- 12 F : 《沈黙1秒》かわいいですねー、ほんとに。
- 13 E : なー、高校生って=。
- 14 E : =いや、でも、この前なー、《沈黙1秒》ちょうど、あの一、説明会ー《少し間》の話聞きにきて (うん)、高校受験の分の (うーん)。
- 15 E : 「高校名」(はい、あー) ってとこに聞きにいったんけどー。
- 16 E : なんか、いうたら、この高校の一年間みたいなんを (うーん)、ぱーってスライドショーみたいのを見て (うーんうん)、“うーわ、まじ高校生戻りたい” って思った (<あはははは>)。
- 17 F : いやー、思いますよー、“あんときの、なんか、ピュアな感じのときに戻れたらなー” って。
- 18 E : なー。
- 19 E : ピュアやなー。
- 20 F : ねー。

先行話題は、「高校生はピュアだ」というものであり、13Eは「高校生は (ピュアだ)」という、この話題のなかの発話である。これに続く14Eは「(Eは) 高校受験の説明会を聞きにいった」という発話である。これらは「高校」というキーワードでつながっているようにも見えるが、展開や補足といった直接的なつながりは、この2つの発話間の関係のみに注目すれば、見いだしがたい。いっぽう、14Eと15

Eは補足型, 15Eと16Eは展開型, 16Eと17Fは補足型というふうに直接的につながっていく。そして19Eは, 直前の発話に補足型としてつながるのみならず, 転換前の話題である「高校生はピュアだ」という13Eの発話にもつながる。このような話題転換を「挿入型話題転換」とする。

このような転換は, 先行する話題につながる発話を行う前に, その前提的なことがらを示すものである。この前提の発話が先行発話とは直接的にはつながらない発話となっている。したがって, 発話と発話のつながりかたは3.2.2の「新出型話題転換」と同様であるが, 話題の内容としては3.2.1の「再開型話題転換」のように再出ということになる<sup>12</sup>。

「挿入型話題転換」の話題のつながりを模式図で示すと, 以下の図4ようになる。(6)の14Eが発話b1にあたる。14Eから17Fまでの発話は, 13Eとは直接的につながらず, 19Eが発話bnと考えられ, 13Eと直接的につながっている。したがって, 14Eから19Eまでの「高校の説明会に行った」という話題Bが, 「高校生はピュアである」という話題Aのあいだに挿入されていると考えることができる。

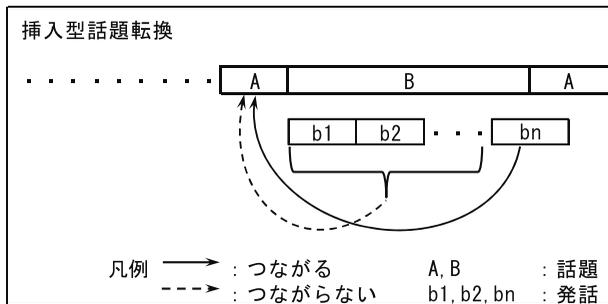


図4 挿入型話題転換の模式図

<sup>12</sup> 機能としては、「話し手が、先行部で述べたことに関連して後続部で必要な情報を持ち出して説明し, それを参照したあと, 再び元的话题を続ける」という「参照」に近い(日本語記述文法研究会(編)2009: pp. 115-116)。

#### 4. 現場性のある話題転換（現場状況の影響を受けた話題転換）

ここでは、これまでに提示した分類方法では扱えないような話題転換について取りあげる。以下の（7）のように、現場の状況を話題として取りあげるような話題転換は、話し手および聞き手にその状況が共有されている（もしくはその場で共有される）ことにより、特別な転換の手続きを示すことなく行われることが多い。

（7）20代男性Gと20代男性Hによる雑談会話（2010年6月30日）

1 H：だってー、ほんまに、あおの、あおのとき急で、たま、体重が、増えへんかってびっくりしたもん。

2 H：帰って体重計乗って〈“うわっ”て〉、こんだけ食べたのにあんまり増えてないって、どんだけ汗（おー）かいたんや〈と〉思っ（て）。

3 G：あれやな、代謝やなー。

4 H：うん、や、。

5 G：燃やしてたんやなー。

6 H：うん。

→7 G：雨降ってるか？、降ってるー？、降ってる？。

8 H：分からない。

9 G：なん、降ってる感があるな。

10 H：降ってるようで、降ってないようで。

（7）の7 Gにおける、いま雨が降っているかどうかを確認する発話は、先行する体重変化の話題とはなんの関係もない。その場の状況を話題として提出する転換の型として、連鎖の特徴などとは別の視点で分析をする必要があると考えられる<sup>13</sup>。

#### 5. 話題転換の分類の有効性

ここでは、5.1でこれまで述べてきた分類のまとめを行い、先行研究における分類との対応表を示す。5.2では、この論文で示した分類

によって、どのような分析の可能性が考えられるのか、今後の展望と残された課題を述べる。

### 5.1 話題転換の分類のまとめ

この論文で独自に提示した項目の定義をまとめると、以下のようになる。いずれも話題転換後最初の発話が、ほかの発話とどのようなつながりをもつか、またはつながりをもたないかという観点から分類している。

「再開型話題転換」：話題転換後の最初の発話が、先行するどこかの発話と、なんらかのつながりをもつような話題転換

「新出型話題転換」：話題転換後の最初の発話が、先行するすべての発話と、なんのつながりももたないような話題転換

「挿入型話題転換」：話題転換後の最初の発話は、先行するすべての発話とつながりをもたないが、転換後に連なっていく発話群のなかに、先行するどこかの発話とつながりをもつ発話があらわれるような話題転換

また、これまで述べてきた分類をまとめたものを、表1として提示

---

<sup>13</sup> このような「現場性」に基づく話題転換は、聞き手も同じ状況を共有し、先行話題をさえぎられるようなものでないかぎり、なんの前触れもなく突然行われたとしても、トラブルの要因とはなりにくいと考えられる。また、現場性のある「実質的なアクティビティ」の場合、日本語学習者は積極的に話題展開を進めることができおり、「屋外での実質的アクティビティに伴う会話の中では、室内の言語的アクティビティとは違って、理解できない発話についての意味交渉が盛んに行われずに話題が転換してしまっても、大きな問題として留意されない特徴もある」（中井2012：p. 110）と報告されている。しかし、現場性のない話題転換と同様に、転換の手続きがきちんと示される場合もある。話題転換表現の習得という観点からは、このようなマーカーのない転換が可能となる条件についての分析は重要であり、今後の課題としたい。

する。該当する会話例の番号を対応させてある。さらに、話題転換が分類されている3つの先行研究との対応を示すことで、この論文における分類の位置づけを行う。

表1 話題転換の分類表

現場性	境界づけ	話題のつながり	会話例番号	先行研究の分類
あり	—	—	(7)	—
なし	あり	再開型	(4)	『再出』『再生型』 『話題の転換』 『補足要求』
		新出型	(5)	『新出』『新出型』 『話題の変更』
		挿入型	(6)	『再出』『再生型』 『話題の転換』 『参照』
	なし	—	(2)	『派生型』 『話題の転換』

先行研究で使われている用語は『 』内に示してある。まず、南(1981)の「接続の型」としての「断絶」は「後続する談話の内容が、先行する談話のそれとまったく違うものになっているもの」(南1981:p.95)であり、これが『新出』と『再出』にわけられている。

(8) 南(1981:p.95)による2分類

『再出』: その会話部分の先行のどこかの談話で話されたことがある話題がまた出て来たもの

『新出』: その会話部分で今まで話されたことのない、まったく新しい内容が出て来た場合

『新出』は、この論文での「新出型」とほぼ対応するが、『再出』については、「挿入型」と「再開型」のいずれの場合も考えられる。「そ

の会話部分」というのが後続する話題のなかの発話すべてをさしており、この論文のように話題転換後の最初の発話に限ったつながりではないからである。

次に、村上・熊取谷（1995）では、話題の内容からみた分類を3つの型に分類する。

（9）村上・熊取谷（1995：pp. 103-104）による3分類

『派生型』：先行トピックで言及された事象からトピックが選ばれ、これが導入される場合

『再生型』：隣接トピックの間では一見新出型に見えるつながりが、実はそれ以前のトピックで語られた内容が再度後続トピックとして導入される場合

『新出型』：先行トピックの中で全く言及されていなかったことが後続トピックになる場合

この論文の分類にあてはめれば、『派生型』は「境界づけのない話題転換」に、『再生型』は「挿入型」か「再開型」に、『新出型』は「新出型」に、厳密ではないが、それぞれおおよそ該当する<sup>14</sup>。これらの分類も、この論文の「挿入型」のような転換を項目として独立させてはいないということになる。

また、日本語記述文法研究会（編）（2009）では、転換の接続表現の用法を4つにまとめている。これらは、機能的な違いも説明するものであるが、この論文における分類では機能的な面での分析を行っていないため、「話題のつながり」という観点のみにあてはめて対応させたものを示した。

<sup>14</sup> 村上・熊取谷（1995）は、この順でトピックの結束性が弱まるとしているが、明確な検証までは行っていない。さらにこれらを相互作用からみた分類「断絶型」「割り込み型」「継続型」と組み合わせた9分類を提示しているが、それぞれの違いは明示されていない。

(10) 日本語記述文法研究会（編）（2009：pp. 115-117）による  
4分類

『話題の転換』：後続部で、すぐ前の話題の内容の一部に関連をもつ別の話題が導入される。

『参照』：話し手が、先行部で述べたことに関連して後続部に必要な情報を持ち出して説明し、それを参照したあと、再び元の話題を続ける。

『補足要求』：後続部の話題は、談話をさかのぼって前の話題に関して情報の補足を相手に要求する。

『話題の変更』：話題は今までの話題とはまったく関係ないものに変えられる。

これらを、この論文の分類にあてはめれば、『話題の転換』および『補足要求』は、いずれも「再開型」に該当する。これらは機能の違いであり、転換の型としては同一視してよいものと考えられる。『話題の転換』は、「すぐ前の話題の内容の一部」とのつながりなので、先行発話の終了部分の発話と後続話題の開始部分の発話が「関連をもつ」ものである場合、「境界づけのない話題転換」になることもある。『話題の転換』は、「挿入型」となるときもあるが、それは、『参照』のように先行話題に関連した説明のための一時的転換ではない場合である。『参照』は、話題のつながりとしては「挿入型」と対応する。また、『話題の変更』は「新出型」に対応する。

## 5.2 話題転換研究の可能性と課題

この論文では、日本語の雑談会話における話題転換の分類を示し、その具体的な方法について述べた。

以下では、この方法により分類した話題転換ごとに、話題転換表現の出現傾向を調査することができるということを主張する。日本語の雑談会話における話題転換表現は多様であるが、転換の種類によって使われやすさに違いがあるかどうかといった点について、量的な分析

はほとんどなされていない。その理由として、以下の2点が考えられる。

- (11) 多数の言語形式や非言語行動、外部状況などの組み合わせによる多様な話題転換表現を統計的に処理する方法が難しい。
- (12) そもそも「話題」や「転換」といったものの認定が難しい。

この論文の分類により、(12)のような、話題転換箇所の認定、および転換の種類についての前提的な課題が克服されるとしたら、その種類ごとに出現する話題転換表現マーカーを分析することができるようになり、次の(13)のような分析も可能となる。

- (13) どのような種類の転換時に、どのような話題転換表現が、どのような組み合わせで、どのくらいの頻度で使用されているかという、話題転換表現の出現傾向を示す。

また、話題転換表現の出現傾向は実際の会話での運用という点からも、分析が必要とされる項目のひとつであり、(13)のような分析は、(14)のような点においても有益であると考えられる。

- (14) 話題転換時に、その転換の種類を認識することによって、用いるべき話題転換表現の選択肢として、その出現傾向を参考にすることができる。

さらに、会話での運用という点からは、日本語教育における会話教材において、話題転換がほとんど取りあげられず、取りあげられている転換表現にも偏りがあるという現状を指摘することができる。日本語母語話者による話題転換の実態が教材に反映されれば、日本語教育のシラバスそのものも変化する可能性がある<sup>15</sup>。

また、こういった話題転換表現の習得という観点からは、4に示したような「現場性のある話題転換」についての分析は重要なものであるが、先行研究においてもほとんど分析されていない。この論文の分類の枠組みでは分析しきれない「現場性のある話題転換」や「境界づけのない話題転換」の位置づけや分析を行うことが今後の課題として浮かびあがってくる<sup>16</sup>。

以上のような点から、この論文で行ったような話題転換の分類は有効であり、かつ話題転換の研究にあたっては必要不可欠なものと考えることができる。

### 稿末資料

「文字化記号の凡例」(宇佐美2011を一部改変)

- 1 発話文の終わりにつける。
- .. 発話文が終わっていないことを示す。
- 、 日本語表記の慣例通りにつける。この位置に短い間がある場合は「,」。
- , 発話文中に短い間がある場合につける。
- … 文中、文末に関係なく、音声的に言いよどんだように聞こえるもの。
- # 聞き取り不能であった部分。推測される拍数に応じてつける。
- ? 疑問の終助詞や語尾上げなどにより、疑問の機能をもつ発話につける。発話文末なら「?。」、倒置疑問の機能をもつ場合、発話中に「?,」。
- ?? 確認などのための、いわゆる半疑問文につける。
- = = 改行される発話と発話の間(ま)が、まったくないことを

<sup>15</sup> そのためには、まず接触場面における母語話者および非母語話者の話題転換の実態も、この研究のような方法で分析されなければならない。

<sup>16</sup> さらに、この論文で対象とした雑談会話だけでなく、依頼や相談のような会話における話題転換の分析への応用可能性についても検討していく必要がある。

示す。

- [ ] 音声上の特徴（アクセント、声の高さ、大小、速さなど）を記す。
- ( ) 短く、特別な意味を持たない「あいづち」を示す。
- < > 笑いながら発話したものや笑いを示す。
- (< >) 相手の発話と重なって笑いが入る場合、短いあいづちと同様に扱う。
- ‘ ’ ①漢字の読みかたが複数あるとき、特別な読みかたの場合。  
②通常と異なる発音がなされたときの正式な表記。
- “ ” 話者および話者以外の者の発話・思考などの内容が引用された場合。
- [ ] プライバシー保護のために明記できない単語を表すときに用いる。
- 《少し間》 話のテンポの流れの中で、少し「間」が感じられた際につける。
- 《沈黙 秒数》 1秒以上の「間」は、沈黙として、その秒数を記す。

## 参考文献

- Atkinson, J. M. & Heritage, J. (1984) "Topic organization", *Structures of Social Action*, (ed. by Atkinson, J. M. & Heritage, J.), pp. 165-166, New York: Cambridge University Press.
- 石崎雅人・高梨克也 (2009) 「会話・対話のまとまりに関する一考察」『言語・音声理解と対話処理研究会』55, pp. 87-92.
- 市川孝 (1963) 「文章論」『文部省国語シリーズ57 文章表現の問題』, pp. 7-46, 教育図書. (信光社 (編) (1975) 『覆刻文化庁国語シリーズ X 文章の構成・表現』, pp. 97-125, 教育出版.)
- 市川孝 (1978) 「文から文へ 一文の連接と配列一」『国語教育のための文章論概説』, pp. 87-122, 教育出版.
- 糸井通浩 (2003) 「文章・談話研究の歴史と展望」佐久間まゆみ (編) 『朝倉日本語講座7 文章・談話』, pp. 275-297, 朝倉書店.

- West, C. & Garcia, A. (1988) "Conversational Shift Work : A Study of Topical Transitions Between Women and Men", *Social Problems*, 35(5), pp. 551-575.
- 宇佐美まゆみ (2011) 「改訂版：基本的な文字化の原則 (Basic Transcription System for Japanese : BTSJ) 2011年版」, ([http://www.tufs.ac.jp/ts/personal/usamiken/btsj\\_ver.2011.pdf](http://www.tufs.ac.jp/ts/personal/usamiken/btsj_ver.2011.pdf)).
- 大石初太郎 (1954) 「日常談話の中の接続詞」『言語生活』 36, pp. 37-42.
- 串田秀也 (1997) 「会話のトピックはいかに作られていくか」谷泰 (編) 『コミュニケーションの自然誌』, pp. 173-212, 新曜社.
- Sacks, H. (1992) Winter 1971 February 19 "Poetics; Tracking co-participants; Touched-off topics, Stepwise topical movement" *Lectures on Conversation.vol.2*, ed. by Jefferson, G. pp. 291-302, Oxford : Basil Blackwell.
- 鈴木香子 (1995) 「内容区分調査による対話の「話段」設定の試み」『国文目白』 34, pp. 76-84.
- 中井陽子 (2003) 「初対面日本語会話の話題開始部／終了部において用いられる言語的要素」『早稲田大学日本語教育センター紀要』 16, pp. 71-95.
- 中井陽子 (2012) 「言語的・実質的アクティビティにおける会話データの分析」『インターアクション能力を育てる日本語の会話教育』, pp. 67-135, ひつじ書房.
- 永野賢 (1959) 「文章論概説」『学校文法文章論』, pp. 59-114, 朝倉書店.
- 永野賢 (1972) 「文法論的文章論における基礎的概念」『文章論詳説』, pp. 67-161, 朝倉書店.
- 永野賢 (1986) 「文章構造の解明」『文章論総説』, pp. 123-354, 朝倉書店.
- 日本語記述文法研究会 (編) (2009) 「話題の展開を表示する接続表現」『現代日本語文法7 談話・待遇表現』, pp. 111-141, くろしお出版.
- 南不二男 (1981) 「日常会話の話題の推移 —松江テキストを資料とし

- て一』『藤原与一先生古稀記念論集 方言学論叢 I 一方研究の推進一』, pp. 87-112, 三省堂.
- 村上恵・熊取谷哲夫 (1995) 「談話トピックの結束性と展開構造」『表現研究』 62, pp. 101-111.
- メイナード, K. 泉子 (1993) 「テーマの構造」『会話分析』, pp. 127-151, くろしお出版.
- 楊虹 (2005) 「話題転換研究の概観 一タイプと方略を中心に一」『言語文化と日本語教育』 増刊特集号, 第二言語習得・教育の研究最前線 一あすの日本語教育への道しるべ一, pp. 159-185.
- 楊虹 (2006) 「日本語母語場面の会話に見られる話題開始表現」『人間文化論叢』 8, pp. 327-336.

(大阪府立大学大学院人間社会学研究科 博士後期課程)